

淀川水系流域委員会 第 21 回猪名川部会 結果概要

開催日時：2004 年 9 月 1 日（水）16：00～19：05

場 所：天満研修センター 101 ホール

参加者数：委員 8 名、河川管理者（指定席）12 名
一般傍聴者（マスコミ含む）73 名

※本稿は、議事の概要を簡略にまとめたものです。詳細の議事内容については、後日公開される議事録をご参照下さい

1. 審議の概要

注） 発言内容の冒頭の記号は、以下を意味しています。

部）：部会長 ・：その他委員 ←：河川管理者 傍）一般傍聴者

※資料についてはホームページを参照して下さい。

※発言内容の詳細については、議事録をご覧下さい。

①余野川ダムサブWGについて

本多サブリーダーより、資料1「余野川ダムSWG結果報告、議事内容」を用いて、余野川ダムサブWGにおける検討経過の報告が行われた。

②河川整備計画基礎案に係る平成16年度事業の進捗点検について

河川管理者より、資料2「河川整備計画進捗状況」およびビデオを用いて、河川整備計画進捗状況や福井県・足羽川の洪水について説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。

○進捗点検の進め方について

- ・流域委員会の提言と河川管理者の基礎案に齟齬や乖離があった場合に、改善していく仕組みが必要だと思う。

○堤防強化について

- ・福井の洪水被害のビデオを見て、洪水の怖さを感じるとともに、壊滅的被害の回避のためには、堤防強化が何よりも大事だと実感した。流域委員会には、堤防強化委員会の検討結果が報告されたが、一度、堤防強化委員会の専門家に直接説明をして頂く機会を作ってほしい。もし、委員会の考え方と齟齬があるようであれば、河川管理者は堤防強化委員会にブラッシュアップしてもらおうよう、要請してほしい。

←流域委員会への要請として、運営会議に諮りたい（部会長）。

←高規格堤防であれば越水破堤も起こりにくいが、通常の堤防では越水破堤を防げないという前提で検討している。堤防強化委員会での議論を得た上で河川管理者から堤防補強工法を提示している。不十分と思われる点があれば河川管理者とし

て議論させていただきたい。堤防強化委員会との意見交換を流域委員会が望まれるなら、検討をしたい。提示している工法は、浸透と洗掘を主な対象として検討を進めたが、越水にもある程度の効果があるように、ドレーンの周囲をカゴマットで覆うといった工夫はしている。ただし、越水破堤を防ぐための体系的な検討はできていないので、コストや環境への影響を考えた上で、もっとよい工法を考えていかななくてはならないと考えている。(河川管理者)

※本意見のうち、流域委員会への要請（堤防強化委員会委員による説明）については、後日、委員より撤回する旨の意見が提出された。

- ・現在、河川管理者から提示されている越流破堤を防ぐための工法には、全く不満だ。さらなる検討をお願いしたい。

←浸透や洗掘については対応を進めているが、越水破堤を完全に防ぐための工法については、現在のところ、高規格堤防しかない。このため、猪名川では、越水破堤を防ぐことはできないという前提で検討を進めている。また、越水対策のための体系的な検討には、コストや環境も配慮する必要がある(河川管理者)。

- ・越水による破堤を防ぐための堤防強化は、人命に大きく関わっているので、とにかく検討を急いでほしい。
- ・堤防強化について、よくわからないことが多いので、もう少し説明してほしい。また、対象降雨の選定基準もよくわからない。河川整備計画が対象としている 20～30 年は、引き延ばし降雨ではなくて、既往最大の実績降雨で検討を進めていくべきだ。
- ・越流破堤を防ぐのは無理なので、一部の堤高を低くして、越流を誘導するという考え方が主体になっていくのではないかと考えている。
- ・越水を誘導する堤防は、土地利用の面で、自治体や地域住民の合意がとれるかどうかポイントだ。かなり難しいと思う。
- ・兵庫県が管理している猪名川本川や銀橋上流の区間の整備と整合性はとれているのか。
←兵庫県の改修計画として、銀橋の上流で築堤を実施している。これについては、河川整備計画の期間内に達成される予定のものについては考慮して検討を行っている(河川管理者)。

○河川利用について

- ・資料 2 の P45 では、河川利用の縮小策として、「申請者（〇〇市）から更新申請がなされない場合」に縮小策をとると書かれている。この書き方だと、更新申請があれば、河川管理者は河川利用の縮小に向けて動かないというように受け取れる。現実問題として、申請者が更新しない場合があり得るのか。これでは、委員会の提言から後退してしまっている。

←強制的に河川利用を排除するわけにはいかないので、利用者である自治体に更新時に説明をしていくことが大切だと考えている。まずは、住民や自治体の理解を得ることが大切だと思っている(河川管理者)。

- ・外来種対策として、何か実行したことはないのか。また、堤防上の樹木は、治水上、プラスなのか、マイナスなのか。また、河川管理者として、今後、河道内のヤナギ類をどのように扱っていくのか。

←外来種対策として草刈りや発芽を抑制するための芽摘みに取り組んでいる。また、河道内樹木に関しては、猪名川自然環境委員会に審議して頂き、間引きや伐採を実施したい（河川管理者）。

○住民への情報提供、河川レンジャーについて

- ・資料2では、住民への河川情報の発信について検討課題が示されている。しかし、川への認識を深めてもらってはじめて、情報を正しく判断できるようになるので、住民がうまく情報を活かせるようになるための取り組みも必要だ。河川レンジャーに係わる取り組みをうまく組み合わせて検討してほしい。

←災害弱者への被害が頻発している状況に鑑みて、災害弱者を考慮した情報を市町村にどのようにして素早く出していけばよいか。河川管理者としては、まずはここから取り組んでいきたいと思っている。ケーブルTV局との接続も進めていきたい（河川管理者）。

- ・河川レンジャーの準備会委員の選定基準があれば、教えてほしい。できれば、住民運動に明るい専門家を委員として入れることを考えてほしい。

←準備会のメンバーは行政法の専門家、環境等の専門家、河川工学の専門家を考えている。準備会で~~は~~、河川レンジャーの概要を検討してもらい、その後、具体的な人選に入りたい。なお、住民運動に明るい専門家にも河川レンジャーに入ってもらおうと考えている（河川管理者）。

③余野川ダムについて

第4回ダムWGで配布された資料1-7「余野川ダムの効果について」について、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。

- ・銀橋・狭窄部を開削した場合の検討は行っていないのか。

←狭窄部上流の浸水被害対策の代替案の1つとして検討をしている。下流の神崎川の治水も合わせて、総合的に検討している。結果が出れば、すぐに示したい（河川管理者）。

- ・銀橋・狭窄部を開削して流下能力を1,000m³/sにまで高めたケースや一庫ダムの嵩上げを行ったケース等、複合的な検討結果は出せないのか。可能であれば、次回の余野川サブダムWGまでに示してほしい。

←効果があると分かれば、検討していきたいと考えている（河川管理者）。

←今のところ、別々に分けた検討結果を示している。今後は当然、複合的な条件のもとで検討していく必要があると思っている（河川管理者）。

- ・ダムについては、利水や治水計画全体を考えた議論をしなければならない。神戸市では、平成11年に湊川の氾濫が起きたが、これを受けて、烏原貯水池140万m³を治

水用のダムとして使っている。貯水池の上流に建設予定のダムが完成すれば、元のとおり、上水用の貯水池として使うようになるが、こういった転用もあり得るだろう。ダムWGでは、「どこまで整備すれば、どこまで浸水被害を軽減できるのか」といったレベルを明確にしていくことが大切だ。

- ・ダムWGでは、ダムの効果を検討する際の対象降雨として、引き延ばし降雨ではなく、既往最大の実績降雨を基準にして検討を進めていこうという議論が行われた。余野川ダムでは、昭和28年9月降雨の1.5倍と1.8倍を用いて検討しているが、これはなぜか。流域全体で見れば既往最大の降雨である昭和28年の実績降雨についても、検討をして結果を示してほしい。

←昭和28年9月の1.5倍は下流において浸水被害が発生し出す降雨倍率、1.8倍は現行計画で採用している降雨倍率である。実績降雨については、昭和35年8月降雨で計算をしている。昭和28年の実績降雨では、氾濫が発生しないので、検討結果は示していない（河川管理者）。

←ダムWGでは、狭窄部上流の浸水被害を軽減策を検討する際の、基準とする降雨について議論をした。銀橋・狭窄部下流については対象降雨を決めていないので、これから検討していかなければならないと思っている（河川管理者）。

- ・第4回ダムWGの資料1-7 P21では、余野川ダムの効果として、8,096億円の浸水被害軽減効果があるとなっている。この金額の算出根拠を教えてください。

←猪名川流域は、住宅や工場が密集していることに加えて、歴史上の資産も多い。これが浸水した場合の被害額を積み上げて算出した。算出根拠については、マニュアルがあるので、あらためて、示したい（河川管理者）

- ・一庫ダムの堆砂容量の振替案として一庫ダムの上流に堆砂ダムが検討されている。堆砂ダムもダムであることには変わりがなく、コストや環境への影響も心配される。これらの検討は進んでいるのか。

←堆砂容量の振り替えが有効だとわかれば、堆砂ダムの環境への影響やコストについて、検討をしたいと思っている（河川管理者）。

- ・下流域の水位低下対策として、河道掘削や土砂の除去も考えられる。せひ、検討してほしい。

←当然、検討すべき案だと思っている。代替案の中で検討結果を示したい（河川管理者）。

2 今後のスケジュールについて

庶務より、資料3「委員会における今後のスケジュール」を参考に説明があった。その後、部会長より、「余野川ダムの現地である、止々呂美地区で部会を開催し、地元住民の意見を聞く必要があると思っている。止々呂美地区での部会開催も視野に入れて、日程調整を行い、月一回程度の頻度で部会を開催していきたい」との報告がなされた。

3 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者1名より発言があった。主な意見は以下の通り。

傍) 堤防強化について議論を深めるのは非常に大切だ。新潟や福井の洪水災害では、上流のダムは結局役に立たなかった。確かに流出量の抑制効果はあったと思うが、最終的に、破堤してしまっている。一番重要なのは、越流しても破堤しないための堤防強化である。今後も、検討を進めてほしい。また、委員会では、コストについて議論されていない。ダムを造るよりも、堤防強化の方が安い。まずは、堤防強化が先決だ。ダムをつくれば、堤防強化の必要がなくなるという話ではない。それから、現在、銀橋上流で築堤整備が進んでいるが、これが完成すれば、多田地区の浸水被害はなくなる。つまり、銀橋狭窄部の開削と同じ効果が得られるという点に留意した上で、議論を進めてほしい。

←新潟の洪水災害では、限界があったとしても、ダムによる水位低下効果はあったことは確かだ。福井の洪水災害の原因に関しては、調査委員会で原因究明が進んでいる(委員)。

以上